

# 公共事業環境配慮システムの実施状況について

平成17年3月  
環境あきたアクションチーム

## 1 システム概要

### 【対象事業】

県が実施する道路の整備事業など**17のハード事業**

### 【主な特徴】

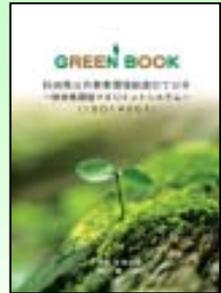
うち、評価対象は

計画・設計段階

……**500万円以上**

施工段階

……**1億円以上**



「環境配慮のてびき」

現場  
主義

地域振興局等の現場担当職員が事業実施前に環境配慮表を作成

連携

請負業者等とともに配慮事項を検討

積極  
PR

事業完了後、特に配慮したことを積極PR

OA  
システム

迅速、かつ効率的な運用

### 【事務フロー】

- 1 事業実施前、現場担当者がその現場に適していると考えた環境配慮事項を検討
- 2 請負業者など事業に携わる関係者と協議して実施する事項を決定
- 3 事業完了後、検討・実施するとした事項のうちどの程度配慮できたか(配慮率)を自己評価(目標に対してどうだったのか、など)
- 4 個別の評価結果を集計して、県全体としてどうだったかを評価して、知事に報告
- 5 各年(暦年)の評価概要を公表

## 2 これからの取組

### 1 平成17年の目標配慮率を**70%**に設定(全事業種共通)

目標の未達成をおそれず、果敢にレベルの高い環境配慮にトライ！！

### 2 県職員及び市町村職員を対象とした研修の実施

環境配慮意識の一層の広がり浸透  
特に平成17年は、「地球環境保全」と「全ての主体の参加」に力点

### 3 優良な環境配慮事例をホームページ等で広く県民に紹介

良いことはどんどん紹介！  
職員のヤル気の加速！！

「水と緑」に恵まれた「環境あきた」を  
次の世代へ！！

### 3 平成16年における優良事例

現場発生材を活用する事例  
平成16年度地方港湾改修事業(本荘港)



の拡大写真

港の改修工事にあたって、まだ使える**既存の消波ブロック( )**を**の場所に再利用**する設計をしました。  
環境に配慮するだけでなく、**コスト縮減**にもつながります。

### 4 その他の環境配慮事例

生態系に配慮した水路の整備



整備前



整備後

間伐材を有効利用



完成時



3年後

既存木に配慮した急傾斜工法



整備前



整備後